

事務事業評価シート(事後評価)

事務事業名	公共下水道施設整備事業(高田・本郷処理区)				担当課名	上下水道課
政策名	四季に輝くやすらぎのまち				担当係名	下水道係
施策名	上下水道の整備				課長等名	小林英光
施策細項目名	公共下水道事業の推進				担当者名	加藤定行
予算科目	会計	下水道事業	款	下水道事業費	項	下水道事業費
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	開始年度	年度から			
	<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 9	年度から	平成 32	年度まで
法令根拠、条例等	都市計画法、下水道法					
事務事業の概要	事務事業の内容	高田処理区(H19年～H32年) 本郷処理区(H19年～H27年) 計画整備面積 高田処理区(新鶴特環合)3,23ha 本郷処理区1,93ha 計画処理人口 高田処理区(新鶴特環合)7,800人 本郷処理区8,200人 計画汚水量 高田処理区(新鶴特環合)3,840m ³ /日 本郷処理区3,590m ³ /日 計画管渠延長 高田処理区 150～600mm L=63,600m 本郷処理区 150～500mm L=40,316m 処理方式 高田処理区 0.0方式(オンソフ汚泥減容装置付) 本郷処理区 嫌気好氧2床法				
	業務の内容(職員が行っている内容)	各工事詳細設計委託の設計、発注、精算業務 各工事の積算、発注、監督、精算業務				
	事業費の費目	326,700千円				
	これまで行ってきた改革改善内容					

1、現状把握の部(DO)

(1)事務事業の目的と指標

手段(主な活動)

20年度実績	21年度計画
管渠整備 高田処理区 L=2,782m 本郷処理区 L=1,492m	高田処理区 L=1,400m 本郷処理区 L=1,700m

対象(誰、何を)

公共下水道施設整備における整備面積

意図(対象をどのような状態にしたいのか)

公共下水道施設整備における整備面積を拡大し、早期普及に努める

結果(どんな結果に結びついているのか)

公共下水道施設整備推進は、排水の適正処理の推進及び快適で衛生的な生活環境を確保すること

活動指標(活動を表す指標)		単位
ア	平成20年度までの累計整備面積(高田処理区)	ha
イ	平成20年度までの累計整備面積(本郷処理区)	ha
ウ		
対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
ア	全体計画整備面積(高田処理区)	ha
イ	全体計画整備面積(本郷処理区)	ha
ウ		
成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
ア	累計整備面積における進捗率(高田処理区)	%
イ	累計整備面積における進捗率(本郷処理区)	%
ウ		

(2)指標の推移

区分	単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(目標)
活動指標	ア ha	149.7	163.8	180.5	188.3	192.2
	イ ha	80.9	95.0	100.0	107.2	110.4
	ウ					
対象指標	ア ha	323.0	323.0	323.0	323.0	323.0
	イ ha	183.0	183.0	183.0	183.5	183.5
	ウ					
成果指標	ア %	46.3	50.7	55.9	58.3	59.5
	イ %	44.2	51.9	54.6	58.4	60.2
	ウ					

(3)総事業費の推移

区分	単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(目標)
特定財源	国庫支出金	千円	300,000	200,000	200,000	150,000
	県支出金	千円	15,000	10,000	10,000	7,500
	地方債	千円	255,000	170,000	170,000	127,500
	その他	千円	49,060	52,250	43,496	41,700
一般財源	千円					
事業費計	千円	619,060	432,250	423,496	326,700	220,000

(4)事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?	生活様式の多様化・近代化により、公共水域の水質悪化及び尿尿処理などの問題が提起されるようになり、生活環境整備に対する住民の要請が高まったため、平成9年度より事業を開始した。
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	事業の進捗は、町財政面に大きく左右されるため、今後の整備事業の早期整備に懸念が残る。
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見が寄せられているか?	全体計画の区域であってもまだ整備されていない区域の住民から、早く整備を進めてほしいとの声がある。

事務事業名	公共下水道施設整備事業(高田・本郷処理区)	担当課	上下水道課
-------	-----------------------	-----	-------

2、評価の部(SEE) 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	この事務事業の意図は結果(政策体系)に結びついていますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 下水道整備推進は、排水の適正処理の推進及び快適で衛生的な生活環境を確保することに結びつく。
	公共関与の妥当性	なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を使って達成する目的ですか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 公共下水道事業という観点から妥当である。
	対象と意図の妥当性	対象と意図を見直す必要がありますか？対象と意図の範囲を拡大、縮小する必要がありますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 住民から快適な生活環境を確保すべく早期整備が望まれていることから適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	やり方や進め方を変えることで成果を向上させることができますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 整備区域の選定については、住宅密集地を優先とした計画としているため向上の余地はない。
	廃止・休止の成果への影響	事務事業を廃止・休止した場合に影響はありますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有り <input type="checkbox"/> 影響なし 町の重点事業として行われているため廃止・休止はできない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	類似の目的や形態を持つ他の事務事業との統合や連携を行うことができますか？	理由	<input type="checkbox"/> 他に手段があり、統廃合・連携できる <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段はあるが、統廃合・連携はできない 農業集落排水事業及び浄化槽整備事業はあるが、集落までの距離等また整備費の有効性の検討によりそれぞれの整備計画がなされているため統廃合・連携はできない。
効率性 評価	事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減する方法はありますか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 入札制度の改革等により工事請負費等が以前より低価格となっているが、設計積算においては定められた基準により算定しているため、設計工事費の削減はできない。また、再生資材等を積極的に設計に反映し、コスト削減に努めている。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	やり方を工夫して延べ業務時間を削減する方法はありますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 工事の測量設計については、業者に委託しているが、設計の際に指導助言が必要であり、工事費積算・工事監督・設計変更については職員が行わなければならないため、技術職員の配置が必要。(下水道法により定められた職員を監督員としなければならない。)
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平になっていませんか？受益者負担を見直す必要はありますか？	理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 公共下水道区域にない区域については、農業集落排水事業・浄化槽設置事業で対応しているため公平・公正である。

3、評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1)1次評価者としての評価結果			
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2)今後の事業の方向性(改革改善案)		(3)改革改善による期待効果(廃止・休止の場合は記入不要)																		
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性、有効性の結果)	<input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性、有効性の結果)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト				削減	維持	増加	向上				低下			
	コスト																			
	削減				維持	増加														
向上																				
低下																				
<input type="checkbox"/> 目的再設定(目的妥当性、の結果)	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携(有効性の結果)																			
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の結果)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性、の結果)																			
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の結果)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで改革改善をしない)																			

評価に基づいた改革・改善案を記入します。			
21年度の改革改善案		次年度以降の改革改善案	

(4)改革・改善(案)を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

事務事業名	公共下水道施設整備事業(高田・本郷処理区)	担当課	上下水道課
-------	-----------------------	-----	-------

4、事務事業の2次評価結果

(1) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性 適切 見直し余地あり 有効性 適切 見直し余地あり
 効率性 適切 見直し余地あり 公平性 適切 見直し余地あり

(2) 評価結果の根拠と理由

高田・本郷地域とも今の全体計画整備面積は、公共下水道の投資効果の少ない地域もあるため、見直しを図る必要がある。さらに、計画見直しを行う上で、農業集落排水事業や合併処理浄化槽整備事業との連携を図れば、事業費の削減余地はある。
 排水管路は整備しているが、現状の処理槽数では処理能力に限界があり、接続促進に支障をきたしている。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)

- 廃止(目的妥当性、有効性の結果) 休止(目的妥当性、有効性の結果)
 目的再設定(目的妥当性、の結果) 事業統廃合・連携(有効性の結果)
 事業のやり方改善(有効性の結果) 事業のやり方改善(効率性、の結果)
 事業のやり方改善(公平性の結果) 現状維持(従来通りで改革改善をしない)

(4) 改革改善による期待効果(廃止・休止の場合は記入不要)

	コスト		
	削減	維持	増加

評価に基づいた改革・改善案を記入します。

全体計画整備面積の見直し
 処理場能力が限界に達するようであれば、財政状況を勘案し管路整備の縮小等を検討し、処理場を建設する。

成果	コスト		
	削減	維持	増加
向上			
維持			
低下			

(5) その他2次評価会議で指摘された事項

入札制度の改革等により、工事請負費が以前より低価格となっているとあるが、どの程度下がったのか精査する必要がある。